



発行所

一般社団法人 全日本木材市場連盟
編集・発行人 小合信也
東京都文京区後楽1-7-12
〒112-0004 林友ビル6階
電話 03(3818)2906
FAX 03(3818)2907
毎月1回1日発行
定価・年3,000円
(会員は会費に含まれています。)

■台風被害お見舞い

令和元年秋季に連続して上陸した台風により亡くなられた方々に哀悼の意を表しますと共に、被災者の皆様に衷心より、御見舞い申し上げます。被害からの速やかな復旧・復興をお祈りいたします。

■令和元年度第2回木材需給会議開催

林野庁は、令和元年9月24日に「令和元年度第2回木材需給会議」を開催し、「主要木材の需給見通し(令和元年第4四半期及び令和2年第1四半期)」を策定し、公表した。

I 見通しの要点

1. 令和元年第4四半期(10~12月)の需給は、国産材合板用丸太は前年同期に比べ増加、国産材製材用丸太、輸入丸太、輸入製材品、合板及び構造用集成材は、前年同期に比べ減少する見通し。

2. 令和2年第1四半期(1~3月)の需給は、国産材合板用丸太及び合板は前年同期に比べ増加、国産材製材用丸太、輸入丸太、輸入製材品及び構造用集成材は、前年同期に比べ減少する見通し。

主要木材の入荷量等の概要

Table with columns for Domestic Roundwood, Imported Roundwood, Plywood, and Composite Wood, with rows for 28-year total, 29-year total, and quarterly data for 30th and 31st years.

(単位: 千㎡, %) (括弧内は前年比又は前年同期比)

3. 令和元年度の新設住宅着工数は、前年度に比べ減少すると見込まれる。

II 資料の概要(抄)

1. 一般経済の動向 2019年度の実質GDP成長率は、5年連続でプラス達成すると予想、年度末にかけ、各国の経済対策効果やICT関連需要の持ち直しを受けて世界経済も徐々に持ち直し、輸出は緩やかに増加すると予想。

米中对立の激化により、両国経済の減速が世界経済に波及するリスクが以前にも増して高まっている。世界経済悪化を受け、世界的な株安やリスク回避の円高が進む可能性。輸出が悪化し、消費者マインドの悪化や将来不安の高まりなどから反動減以上に個人消費落ち込めば、東京オリ・パラの開催前に景気後退に陥るリスク。2020年度は7~9月の東京オリ・パラに向け個人消費、インバウンド需要が盛り上がり一時的に景気は持ち直すと考えられるが、その反動やインフラ建設の需要の一巡、消費税対策効果の剥落などにより、年度後半景気が停滞するリスク。実質GDP成長率も鈍化と予想。2021年度は緩やかな回復基調に復帰する

ることで、前年比+0.7%に高まる見込み。

2. 住宅着工見通し 2019年1~7月の住宅着工戸数の累計は、前年同期比△0.8%(52.8万戸)と、前年より微減。利用関係別では、持家住宅、分譲住宅一戸建及び分譲マンションの着工戸数が、前年同期よりも増、貸家は前年同期比△12.0%、持家系の増加よりも貸家の減少の方が大。持家系の住宅着工戸数の増加は、国内景気が安定的に推移、若年層を中心とした収入の増加及び住宅ローンの低金利の影響等が考えられる。貸家減少の要因は、2015年1月からの相続税制改正に対する規制対策への需要が一巡、貸家住宅建設に対する金融機関の貸出姿勢の厳格化が続いていること等。2019年4~6月期四半期GDP一次速報に基づく、シンクタンクの予測は、2019年度の住宅着工戸数は平均89.3万戸、2020年度は同87.0万戸が見込まれ、前回予測より下方修正。米中の経済摩擦激化等による世界経済の減速が、国内経済にも影響されることを反映、海外経済の動向が注目される。

3. 国産材丸太(製材用)の需要動向 2019年第2四半期実績は、6月まで大きな災害もなく、国産材の入荷は順調に推移。国産材製材の荷動は、年初から大きな変動がみられず、プレカット工場の稼働も落ち着いた動き。消費税見直しへの対応は、前回のよう大きな山はなく、年初からの緩やかな好調の継続との見方。外材価格が緩

んできており、昨年のような製材品の国産材へのシフトは見られない。第3四半期は、西日本の豪雨災害による影響は少なく、国産材入荷がこのまま続けば、荷動きの大きな変動は期待できない。消費税見直しの最後の駆け込みによる大きな需要増は期待できないが、前年同期+aの需要が継続と期待。第4四半期は、原木の供給が減少する要因少なく、供給に合せた需要の推移想定、前年同期ほぼ同様の需要を期待。2020年第1四半期は、原木の供給が安定していれば、例年並みの需要期待も、合板用、木質バイオマス利用等の需要との品質、価格面で競合する中で、前年同期とほぼ同様の需要を期待。

4. 国産材丸太(合板用)の需要動向
2019年第2四半期実績は、ほぼ堅調な住宅着工(特に構造用合板の需要増大)、輸入合板の急速な減少傾向、フロア合板等国産合板の需要増大、型枠用合板、中層大規模建築用の需要増大傾向、南洋材合板等に関する違法伐採等の環境問題、サバ州の丸太輸出禁止の継続、合板工場の設備投資による生産能力、効率アップ等により、前年同期比増。第3四半期は、前期と同様の要因により、前年同期比で増加の見込み。第4四半期以降も、同様の要因に加え新設工場の本格稼働等により、前年同期比で増加の見通し。

5. 米材丸太の需要動向
2019年第2四半期実績は、昨年閉鎖した大型製材工場の需要量のうち、他の製材工場で補えない需要減を見込むも、明らかに落ち込み見られず、前年同期比若干

減。第3四半期は、供給量に見合った数量と見込み、前期より数量が落ち込むと予測。前年同期比若干減の見込み。第4四半期は、前期と同様の要因により、前期より更に数量が落ち込むと予測。前年同期比減の見通し。2020年第1四半期は、年間需要約2,400千mに若干の季節要因を見込むが、前年同期比減の見通し。

6. 米材製材品の需要動向
2019年第2四半期実績は、連休や働き方改革により工場の総合時間減り、前年同期比減。米材価格高値のため嫌われ、他樹種へと変更された影響。第3四半期は、増税前の盛り上がり感や秋需気配なく、前年同期比減の見込み。第4四半期は、増税後の落ち込み見込まれない。パワビルダーは年間計画に基づき仕込みをしており大きな変化ないが、職人不足により工事が進まず需要伸びず、前年同期比減の見通し。2020年第1四半期は、3月末の本決算に向け大手は仕入調整に入るので需要は落ち込み、前年同期比で減見通し。

7. 米材、欧州材、北洋材、輸入集成材の供給動向
(1) 米材丸太の供給
2019年第2四半期の実績は、需給ともに安定、まとまった数量が入ったが前年同期比は微減。第3四半期は、国内挽工場が8月に6船現地に入港させる等、それなりの数量が入荷する見込み。第4四半期は、カナダにおける夏場の生産停止や合板メーカー向けの数量減の影響出るが、前年同期と大きな差無い見通し。2020年第1四半期は、前期の入荷

若干減少し、その調整で多少は増えるが、国産材の出材現状好調で、前年同期比減の見通し。

(2) 米材製材品供給
2019年第2四半期実績は、消費増税に絡む需要動向の不透明感により、市場は当用買いに徹していた。第1、2四半期の入荷量は何れも前年同期比21・6%減。現地2×4価格が下落し買い進めなかつた状況。第3四半期は、益を挟み住宅着工は順調な事や需要期である事のほか、産地減産やストライキ等による供給不安も煽り、ある程度入荷見込めるが、引続き不透明感より当用買いに徹し、470千mと前年同期比減の見込み。第4四半期は、供給側沿岸のストライキや内陸減産のほか、2×4現地価格の低迷と消費増税見極め等による当用買いにより、前期より入荷減の見通し。国内の消費税増税影響等により前年同期比で入荷減と予測。2020年第1四半期は、消費増税による落ち込み考慮し、入荷は抑えられると予測、本年第1四半期並かそれ以下の見通し。

(3) 欧州材製材品供給について
2019年第2四半期実績は、ラミナは低調で推移も、完成品は順調で前年同期比2・3%増。第3四半期は、引続きラミナは低調、完成品は順調で前年同期並みの見込み。第4四半期は、ラミナが若干回復するが、完成品在庫が多くなり買い控え起こるため前期より若干減少するも前年同期並みの見通し。2020年第1四半期は、完成品在庫増、円高による市況下落懸念、消費増

税による不透明感で買い控えが起こり、前年同期比減の見通し。

(4) 北洋材丸太供給
2019年第2四半期実績は、製材、問屋向けに数量アップ。合板向けは多くない。第3、4四半期は、関税アップの影響により前年同期比で減少の見込み。2020年第1四半期も、関税アップにより前年同期比で減見通し、シベリア材が激減する見通し。2020年1月より輸出税が60%となる。

(5) 北洋材製材品供給
2019年第1四半期は寒波の影響もあり供給減、第2四半期実績は前年同期並み。第3四半期は、端境期の影響はあるが、引続き底堅い需要もありそれなりの入荷量と予測、前年同期並みまたは若干減の見込み。第4四半期は、良材不足も、中国、中近東、北アフリカ等の市場が低迷、ある程度入荷が予想。前年同期は他の年の平均を上回っていたが、今期は平準化される見通し。2020年第1四半期は、根強い需要及び対日価格が比較的良好な事により安定した入荷量と予測。引続き堅調な需要が継続すると予測し、前年同期並みの見通し。

(6) 輸入構造用集成材供給
2019年第2四半期実績は、第1四半期の需要良くなく、消費増税懸念もあり買い控え、前年同期比で減。第3四半期は、現地増産による供給圧力強く前期並みの入荷、前年同期比で増加の見通し。第4四半期は、円高と産地供給圧力による価格下落もあり、国内生産材に比べ輸入材の価格競争力が増加も、消費増税による不透明感や夏休みの影響も

あり入荷は伸びないと予測。前年同期比は、価格競争力の増加により若干増の見通し。2020年第1四半期は、円高と供給圧力、消費増税の影響で入荷量が試され、前年同期比並みの見通し。

8. 南洋材製材品の需要動向

2019年第2四半期実績は、住宅着工数が前年比マイナス、荷動き全般に低調な状況、前年同期比大幅な減少。第3四半期は、7月出荷量が前年同期比107%と学校、体育館の改修工事や首都圏における店舗内装工事の需要はあり、前年同期比若干増の見込み。第4四半期は、消費増税前の仮需は少なく、例年通りの秋需は見込める。非住宅物件など首都圏を中心に需要あり、前年同期比並み見通し。2020年第1四半期は、年末にかけての完工物件多く、一定の需要あると予想。前年同期比並の見通し。2019年第4四半期と2020年第1四半期は、オリンピック前の非住宅、商業施設の需要あると予想。

9. 国産、輸入合板の需要動向

(1) 国内製造合板の需要 2019年第2四半期実績は、大手プレカット工場や大手住宅メーカー、九州エリアの活発な需要に支えられ、生産量を上回る需要となり、前年同期比で増。第3四半期は、上半期に続き、大手プレカット工場中心の活発な需要続き、前年同期比で増の見込み。第4四半期は、住宅着工の消費増税駆け込みのピークアウトや貸家の減少傾向続くも、木造住宅での厚手化、非住宅用途への採用の拡大、フロア台板などの産業用途の拡

大傾向は一層進展と予想。前年同期比で減少する見通し。2020年第1四半期は、基本は消費税後の反動を受け、使用部位、用途の拡大もあり一定の水準は確保。前年同期比減少見通し。

(2) 輸入合板の需要

2019年第2四半期実績は、建築用・産業用ともに用途の縮小傾向が続く。4月入港も予想より少なく、5月の大型連休後も傾向変わらず、前年比大幅減。第3四半期は、ベトナムからの梱包用合板は、中国向け輸出の停滞見通しから減少したままの状態継続。建築用途では持家・分譲戸建て中心の需要続くが、賃貸は減少傾向。夏季休暇も減少要因。フロアベースや造作材料において、他材料への転換がいつそう進み減少傾向は続くと予想。前年同期比で減少の見込み。第4四半期は、供給の不安定性や価格の硬直性に嫌気もたれている中、他材料への転換傾向継続。消費税後の反動とともに大きなマイナス要因。前年同期比で減少の見通し。2020年第1四半期は、需要側は納期の安定性・信頼性を必要とし、川下における他材料転換の行動は一層進むと予想。前年同期比減の見通し。

10. 国内製造合板の供給

2019年第2四半期の実績は、ほぼ堅調な住宅着工、国内合板工場のフル稼働、輸入合板の減少傾向、産地の違法伐採対策等環境問題の影響、設備投資(三重工場等)による国産材合板の生産能力、効率のアップ等により、前年同期並。第3四半期は、前期要因に加え、型枠用

合板需要の漸増、大分、山梨の新設工場の稼働開始により、前年同期比で増の見込み。第4四半期は、前期と同様の要因により、前年同期比で増加の見通し。2020年第1四半期は、前期要因に加え、新設工場の本格稼働により、前年同期比で増加の見通し。

11. 集成材に関する動向及び国内製造構造用集成材の供給動向

2019年第2四半期実績は、前年同期比で10千㎡増加。消費税増税前の駆け込み需要による増加と考えられる。第3四半期は、第2四半期同様駆け込み需要による増加のため前年同期比で45千㎡増加の見込み。第4四半期は、消費税増税の反動による需要減、世界貿易の不透明さなど経済動向の停滞を見込み前年同期比で減少の見通し。2020年第1四半期は、前期の要因に加え、稼働日数の減等により前年同期比で減少の見通し。

林野庁人事異動(抄)

- 10月1付 中部局長、近畿中国局長及び四国局長交代
- ・(大臣官房政策課情報分析官) ↑池田直弥(農林漁業信用基金理事) ↑宮澤俊輔(中部森林管理局長) ↑吉村洋(林野庁経営企画課長) ↑関口高士(同業務課長) ↑宇野聡夫(同業務課技術開発調査官) ↑石田良行(大臣官房調査官・計画課付)
- ・(大臣官房分析官) ↑高野浩文(近畿中国森林管理局長) ↑長田朋二(東北農政局次長)
- ・(農畜産業振興機構理事) ↑野津山喜

晴(四国森林管理局長) ↑石垣英司(農畜産業振興機構理事)

- ・林野庁管理課管理官 ↑高塚慎司(同業務課供給企画班担当補佐) ↑河原聡(庁木材産業課住宅資材班担当補佐)(退職) 堂本 整(北海道森林管理局次長) ↑中西 誠(同総務企画部部長)
- ↑川脇多久男(庁福利厚生室長) ↑門田成生(東北森林管理局総務企画部部長) ↑原嶋広行(庁林政課管理官)
- ・(生産流通調整官) ↑田之上貞司(素材生産推進官)(以上 敬称略)

第47回JAS製材品展示会

丸宇木材市売(株) 北浜市場
10月3日(木)に丸宇木材市売(株)北浜市場(押本雅壽社長、埼玉県)でJAS製材品展示会が開催された。前日、2日(水)の審査会には、8社から47㎡の製品が出品され、服部順昭審査委員長ほか審査員が減点方式による、厳正な審査をした結果、2社の出品材が100点満点となる優秀な成績を収めた。3日の



審査会の様子

展示即売会の式典には、主催者を代表して、全木連の肥後賢輔統括部長が出席し、JAS制度の意義、今後のJAS製材品の役割の重要性や普及への協力要請等をお話された。また、開催市場の押本社長も出席した式典の後、元気の競り子によるJAS製材品等の競りが行われ、活況を呈した。



JAS製品競りの様子

■第64回全国優良木材展示会(東京木材市場(株))

(株)佐川林業に都知事賞
 東京都木材団体連合会(渡辺 昭会長)と東京木材市場協会(市川英治会長)は10月3日(木)に、東京木材市場(株)(市川英治社長)において全国優良木材展示会を開催した。

式典では、各賞の表彰と共に、渡辺都本連会長が全優展開催の趣旨・意義、「木と暮らしのふれあい展」の紹介、関係者への感謝等の挨拶をした。10月2日(水)の審査会では、都木連の岡田事務局長の指導により12社160㎡の製材品について審査し、審査結果は、以下のと



式典の様子



審査の様子

おり。
 ①都知事賞…(株)佐川林業(福島県)
 ②産業労働局長賞…厚沢部林産工業(株)、東北木材(株)、協和木材(株)、(株)杏澤製材所、二宮木材(株)
 ③都木連会長賞…(有)老川賢吉商店、(有)菊地製材所、東部産業(株)、坂本商店、本宮木材(株)
 来賓の東京都森林課石城護課長、早川金光都買連理事長等の御挨拶があり、市川東京木材市場社長から「展示会開催に尽力いただいた関係者への感謝、優良国

産材の一層のお買い上のお願いと併せ、創立100周年記念市の紹介」等の挨拶後、活発なセリが行われた。

■木材アドバイザー養成講習会(建築士会CPD認定)開催のご案内

木材を取り扱う方々等を対象に環境問題や木材需給、日本の林業のほか、木の見分け方や基本的性質、木造建築に関する実践的な知識を学んで頂くため、下記により木材アドバイザー養成講習会を開催します。この講習会は、(公社)日本建築士会連合会のCPD認定プログラムになっていきます。皆様のご参加をお待ちしております。(東京・大阪の各会場で定員40名程度を予定。)

- ①(東京会場) 令和2年2月14日(金) 9:30~17:20、2月15日(土) 9:00~15:40 (於) 東京木材会館(東京都江東区新木場1丁目18-8)
 - ②(大阪会場) 令和2年2月21日(金) 9:30~17:20、2月22日(土) 9:00~15:40 (於) 大阪木材仲買会館 会議室(大阪市西区南堀江4丁目18-10大阪木材仲買会館)
- 受講料は、22,000円(ただし、受講料、テキスト代、受験料等を含みます)
- 【申し込み・問合せ】
 (一社)全日本木材市場連盟 東京都文京区後楽1-7-12 林友ビル6階
 TEL 03-3381-8129 06
 FAX 03-3381-8129 07

雑記帳

和風総本家というTV番組で、お六櫛を取り上げていた。長野県木祖村藪原名産の昔からの工芸品が、パリの高級店で売られ、フランスの人々に高く評価されて使われている。今、日本でも人気沸騰。その職人技は素晴らしいのだが、原料となるオノオレカンバ(ミネバリ)も気になるところ。カバノキ科 カバノキ属 密度・0.84(0.99、圧縮強度・720kg/cm²、用途は櫛、そろばんの玉、足袋の木型、楽器等。本州中部以北の太平洋側、朝鮮半島、中国東北部及びウスリーに分布する落葉高木、高さ15m、胸高直径60cmに達する。日本では標高500m以上の急峻な地形の場所に生育。標準和名は文字通り、斧が折れるほど堅いことから。植物解剖学的には、道管はやや大きく多数存在する重厚な散孔材、心材は赤褐色、辺材は淡黄褐色、その区別は明瞭。材は緻密で非常に堅く、比重が大きく、材質が印章や櫛などの工芸品として適当であるため需要が生じている。オノオレカンバは長寿で成長も非常に遅いため、資源の安定供給及び遺伝資源保全の観点から、利用と並行して永続的確保の方策を構築する必要があるとされる。お六櫛は、地域の貴重な木材資源を活用して、高度な職人技と一体となって作られる機能美、手になじむ質感、使い込むほどに深まる色合いという木の良さを身近に感じられる暮らしを豊かにする実用・工芸品。資源の保護を図りながら、伝統技術が継承され、地域振興につながる木製品を生活に取り入れていきたいものである。